



※デザイン、形状等は異なる場合があります

1.再生に必要な工具を準備します(写真1)
未使用のカートリッジボンベと再生に必要な工具の六角レンチとセッティングボルトを準備します。

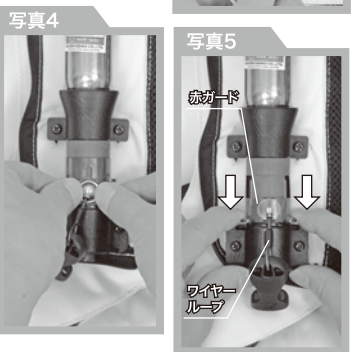
注意 ⚠️ カートリッジボンベはジャケット指定のサイズをご使用下さい。

2.キーボックスにセッティングボルトを差し込みます(写真3)
キーボックスの下面にある穴にセッティングボルトを差し込み、手で締めます。きつになったら六角レンチを使用下さい。(ボルトを締めるとキーボールの穴が下へ移動します)

3.六角レンチでキーボールの穴が中心にくるよう調節します(写真4)
徐々に締めていき内側の金属穴を外側穴の中心に来るように調節します。キーボールの穴が中心に来たら、キーボールをセットします。

4.キーボールをセットします(写真5)
キーボールのリングを穴に深く押し込みます。リングと穴を平行にセットします。うまく入らない場合は、セッティングボルトを緩めたりリングを爪で押し込んでやり直します。

5.赤ガード(スライドカバー)でキーボールが正しくセットされたかを確認します(写真6)
キーボールのワイヤーループを下に向け、赤ガードを下にスライドさせます。スムーズに下にスライド出来ればセット完了です。下にスライド出来ない場合は、キーボールが正しくセットされていませんので、再度、セッティングボルトを緩めたりリングを爪で押し込んで正しくセットして下さい



次ページへ

着用したエアバッグ付ジャケットが膨らんだ状態になった場合、以下の点に注意して下さい。

1. エアバッグ付ジャケットは、特に首を保護するため、膨らんだ際首周りに圧力がかかっています。そのため、着用しているヘルメットのあごひもが取れにくくなる場合があります。その際は、ヘルメット等を外して下さい。
2. 現場の状況に合せて慌てずに脱衣して下さい。
3. 事故等により現場が危険な場合、安全な場所へ避難してから脱衣して下さい。
4. 膨らんだエアバッグ付ジャケットは、身体に多少の圧力がかかりますが、徐々に膨らみ方が緩やかになっていきます。事故により膨らんだ状態で車両に挟まれたり、圧迫をうける状態になっても落ちついて行動して下さい。
5. 膨らんだエアバッグ、大きな衝撃や鋭利な障害物により破損した場合は、気室前部の炭酸ガスが直ぐに抜け落ちてしまいます。
6. 走行中に安全な場所へ移動し、エアバッグ付ジャケットを脱衣して下さい。走行中に安全な場所へ移動し、エアバッグ付ジャケットを脱衣して下さい。そのまま走行すると、膨らんだ気室等によって大きな風圧を受け、不安定な状態となり大変危険です。
7. 作動の際、外傷の出来たエアバッグは、取扱店や当方でメンテナンスを行う場合、エアバッグ付ジャケットを新しいものに取り替えて下さい。著しい外傷、部品破損の場合は、再生出来ない場合があります。
8. エアバッグ付ジャケットを一度作動したエアバッグ付ジャケットを、やむをえずお客様が再生させる場合は、以下の点に注意して下さい。

注意 ⚠️

1. エアバッグ付ジャケットは、特に首を保護するため、膨らんだ際首周りに圧力がかかっています。そのため、着用しているヘルメットのあごひもが取れにくくなる場合があります。その際は、ヘルメット等を外して下さい。

2. 現場の状況に合せて慌てずに脱衣して下さい。

3. 事故等により現場が危険な場合、安全な場所へ避難してから脱衣して下さい。

4. 膨らんだエアバッグ付ジャケットは、身体に多少の圧力がかかりますが、徐々に膨らみ方が緩やかになっていきます。事故により膨らんだ状態で車両に挟まれたり、圧迫をうける状態になっても落ちついて行動して下さい。

5. 膨らんだエアバッグ、大きな衝撃や鋭利な障害物により破損した場合は、気室前部の炭酸ガスが直ぐに抜け落ちてしまいます。

6. 走行中に安全な場所へ移動し、エアバッグ付ジャケットを脱衣して下さい。走行中に安全な場所へ移動し、エアバッグ付ジャケットを脱衣して下さい。そのまま走行すると、膨らんだ気室等によって大きな風圧を受け、不安定な状態となり大変危険です。

7. 作動の際、外傷の出来たエアバッグは、取扱店や当方でメンテナンスを行う場合、エアバッグ付ジャケットを新しいものに取り替えて下さい。著しい外傷、部品破損の場合は、再生出来ない場合があります。

8. エアバッグ付ジャケットを一度作動したエアバッグ付ジャケットを、やむをえずお客様が再生させる場合は、以下の点に注意して下さい。

注意 ⚠️

上記を確認した上で、問題がなければ、お客様の責任に於いて再生して下さい。異常がある場合は、正常に作動しない場合があります。

詳しい再生方法は「作動後の再生P20~23を参照して下さい。

4-2 気室

1. 気室の素材は、高圧のポリウレタンフィルムを使用し、より強度をもたせ、作動時の衝撃を出来るだけ多く吸収するようにしてあります。

2. 通常、作動した瞬間の気室の圧力は、最大膨張時30kpa(0.3kg/cm)程度ですが、徐々にガスが放出され、圧力は下がっていき様になっていきます。

3. 炭酸ガス(CO2)はエアバッグからエアバッグ用エアバッグを通り各気室(ポリウレタンフィルム)に送り込まれます。

4. 破損等に対する強度は、エアバッグの素材、ポリウレタンフィルム及び、縫製強度によっても異なります。また、接触する物の形状、強度、摩擦等によっても変わります。

○ ヒットエアバッグは、衝撃によるダメージを少しでも和らげるために作られたものであり、接触物の形状及び、衝撃の度合いにより、破損等も考えられます。

注意 ⚠️

1. 「一定の距離、離れた瞬間作動し、エアバッグ(気室)に炭酸ガスを送り込み膨らみます。最大限に膨らむことで、衝撃を緩和する効果があります。

2. 胸部にあるエアバッグ付ジャケットは、エアバッグの背面部分には、エアバッグのABS製フロタクターが取り付けられています。

3. 作動後、最大限に膨らんだエアバッグ(気室)は、徐々にガスが抜ける仕組みになっています。エアバッグの衝撃度合いなどにより変わりますが、作動直後に身体への圧迫があります。徐々にガスが抜けて圧迫がなくなっていくようになります。

4. エアバッグ付ジャケットの生地、気室、フロタクター、エアバッグ付ジャケットが傷ついたり、破損した場合は、正常な作動をしません。取扱店にご相談下さい。再生できない場合があります。

注意 ⚠️

5. 事故など作動し、傷、破損等が見当たらない場合でも取扱店、又は当社にてメンテナンスを行う(※3)を行ってから再使用する事をお勧めします。

(※3)メンテナンスエッジとは、エアバッグに、傷、破損が見当たらない場合、その中に組み込まれている気室に破損がある場合がありますので、当方に各気室に空気を入れ漏れがないか、又、組み込まれた部品に異常がないかを確認する作業です。